

【担当教員名】 堀田康雄	対象学年	1	対象学科	理学・作業・言語・義肢・栄養・スポ・看護・社会
	開講時期	後期	必修・選択	選択（理・作・言・義・栄・ス・社）、必修（看）
	単位数	2	時間数	30

【<概要>又は<一般目標：G I O>】

我々が生きている21世紀は、どの専門分野で活躍をするにしても、生命を科学的に理解することなしに幸福にはなり得ない。特に医療福祉専門分野では高度の生命についての理解と畏敬の心が無ければならない。地球上の生命の発生、進化、生殖、寿命などは理解の根幹をなす。人も原子・分子から出来ていて、高度の精神機能も分子のオーダーで理解が進み、生気論や神が造物主であるとするのは信仰においてあるnomiです。生きるために必要な心身の恒常性、免疫機構、生殖行為、死を理解して生きるために、力になるのが生命科学概論とおもいます。難しい事は各専門分野に期待して、「生命とはなんですか？」に各人の答えをつくりましょう。

【<学習目標>又は<行動目標：S B O>】

1. 聴くこと、話すこと、書くこと、感じることで人を楽しませ、自分も楽しむにはどうしますか？
2. 単細胞の行動、人の行動、植物の行動に作用するものの正体は何でしょう？
3. 自己、家族、部族、種を残す為には人はどんなシステムを使っているでしょう？
4. 遺伝子の構造と、その構造と機能の相同性と非同相について考えましょう。遺伝子は一定不変ではないのです。
5. 遺伝子だけでは生命は出来ません。生命現象が示される為には、他にどんな分子が必要でしょうか？
6. 生殖をより効率的にするために、遺伝子は個体にどんな特徴を進化させたでしょう。複雑ですが考えてみましょう。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	講義の聴き方、ノートの取り方、レポートの書き方		講義
2	地球の出現から人が生まれるまで。進化の道すじ		講義
3	細胞の形、組織の形。細胞間連絡、膜システム		講義
4	細胞分裂と細胞周期		講義
5	身体を守る免疫系		講義
6	身体を守る恒常性＝ホメオスタシス		講義
7	細胞の形、組織の形。細胞間連絡		講義
8	遺伝子・ゲノムは変わる。遺伝子組換え、突然変異、SNP。		講義
9	生殖細胞の分化とそれに伴う細胞群の動き		講義

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)	薬学生のための細胞生物学	堅田 ほか	廣川書店	2006・¥400.
参考書	医学を学ぶための生物学	谷口・米田	南江堂	2003・¥3800
	生命科学 東京大学教養学部理工系生命科学教科書		羊土社	2006・¥2800.
その他の資料	適当なものを、プリントにして配布。			

【評価方法】 レポート提出 1回 クイズ 1回、テスト 1回 出席回数	【履修上の留意点】 講義時間に集中する事。理解できない点は教員に質問する。質問する事は社会ではプラスになり喜ばれます。反応の無い授業は寂しいし無駄が多くなります。興味をもつ事です。
--	---